

令和5年度 稲美中学校 3年生の学力調査結果

<学習成果と課題>

国語

○成果があった点 ●課題がある点

言葉の特徴や使い方に関する事項

学習の際、空欄はできる限り少なくするよう指導しているためか、解答率が高く、ほとんどすべての問いに解答ができていた。

文章の読み取りでは、普段より文脈で捉えるよう指導している成果として、文脈に合った言葉を選択することができていた。しかし、全体的に読書量が少ないので、語彙力が低く、「おし量る」という漢字の正答率が低い。今後は日頃の日記指導を含め、様々な書く場面で、多くの言葉を使用できるよう指導する。
○文脈の中で言葉を適切に捉えることができる。
○語句の使い方を理解し、話や文章の中で使う。
●読書量を上げ、語彙力を上げる。

情報の扱い方に関する事項

話し合い活動を授業の中で取り組んだ結果、意見と根拠、具体と抽象など、情報と情報の関係についての問いは高い正答率になっている。今後は普段から、自分の考えをわかりやすく伝えるにはどのような工夫が効果的なのかを、聞き手の立場に立って考えることができるように指導する。

話すこと・聞くこと

○目的や場面に応じて質問する内容の検討ができる。
●論理の展開などに注意して話したり聞いたりする。

我が国の言語文化に関する事項

歴史的仮名遣いや古語など、古典作品のみに使われる言語事項についての指導を丁寧に続けた結果、高い正答率になっている。今後は古典作品に多く接することで古典の表現に慣れていく必要がある。
○歴史的仮名遣いを理解する。
●古典作品において使用される表現の効果について考える。

読むこと

朝読で読書活動を行っており、読書量自体は少ないが、読むことに関しての抵抗はあまりないと思われる。しかし、正答率が低い問いがあり、文章題が読み切れず、問いに答えることを諦めてしまう者がいると考えられる。読む際には表現に着目すること、また、記述による解答についての指導を充実させる。
○文章を読んで理解したことを自らの知識や経験と結び付け、考えを広げたり深めたりすることができる。
●文章の中心的な部分と付加的な部分について捉え、要旨を把握する。

書くこと

○読み手の立場に立って、文章を整えることができる。
●意見と根拠、具体と抽象に分けて文章を書く。

数 学

○成果があった点 ●課題がある点

数と式

日々の演習を継続的に繰り返して学習した成果として、基礎的な計算力は確実に身につけている。
○正負の数・文字式の計算ができる。
○数に関する証明において、論理的に考えることができる。
○数の性質を理解し、活用できる。

図形

一つ一つの図形の性質は理解できているが、それらの性質を利用して他の性質を考えていくことにやや課題が残る。実際に図形をかくことにより、どのような性質が存在するのかを体験的に学習していくことが大切である。
○図形を見比べ、性質の違いからそれぞれの特徴を説明することができる。
●図形の決定における基本性質の理解ができる。

関数

比例や一次関数の基本は理解できている、グラフの意味も理解できている。しかし、反比例に関しては、基本的な理解に努力を要する。反比例の一般式、グラフなどを再度学習して知識の定着を図ることが大切である。
○グラフが何を意味しているのか理解ができる。
●反比例の基本的な意味を知る。

データの活用

示されたデータから、どのような特徴があるかなどを読み取ることができている。データを活用し、自分が欲しい情報を読み取ることがおおむねできている。
○四分位範囲を求めることができる。
○累積度数を求めることができる。
●箱ひげ図から、ある傾向を読み取ることができる。

○棒グラフから、項目間の関係を読み取ることができる。
●棒グラフで表された複数のデータを比較し、示された特徴を持った項目とその割合を記述することができる。

英 語

○成果があった点 ●課題がある点

聞くこと

○英会話から状況を想像し、内容に適した絵を選択する。
○英語の授業において使用している英語での指示を覚え、その内容を理解する。
○会話におけるキーワードを聞き取り、内容を理解する。
●日常的な話題について、自分の置かれた状況などから判断して、目的に応じて必要な情報を聞き取る。
●社会的な話題について、短い説明の要点をとらえる。

【課題解決に向けた学校の取組】

- ・いつ、どこで、だれが、どうした等の5W1Hに着目した「聞く活動」を取り入れる。
- ・話の展開を捉えるキーワードに着目した「聞く活動」を取り入れる。
- ・日頃から英語でのやり取りをする中で、話し手の伝えたい内容を理解する「聞く活動」を取り入れる。

読むこと

- 文の前後から情報を読み取る。
- 「事実・情報を伝える」と「考えや意図を伝える」という言語の働きを理解し、事実と考えを区別して読み取る。
- 文章の大まかな内容を理解し、必要な情報を読み取る。
- 日常的な話題について、短い文章の概要をとらえる。
- 社会的な話題に関して、読んだことについて、考えとその理由を書くことができる。
- 【課題解決に向けた学校の取組】
- ・知っている英単語から大まかな内容を捉えることができるという体験を重ねさせ、英文を読むことへの抵抗を減らす。
- ・教科書やワーク等を通して、状況をイメージしながら読む練習を重ねさせる。

話すこと【やり取り】

- 英語を使って、話したいという意欲がある。
- 自分の持っている知識を使って相手に気持ちを伝えようとする。
- 基本的な表現の知識を身につけている。
- 場面に応じて正しい表現を使って英語で話す。
- 【課題解決に向けた学校の取組】
- ・スピーチなどを行った際に、聞いた生徒がその内容を基にした質問を行うなど、問い返し活動を増やす。

話すこと【発表】

- 日常的な話題に関して、聞いたことについて考えと理由を述べようとする。
- 自分の考えとその理由を述べる。
- 【課題解決に向けた学校の取組】
- ・英文を読んだり聴いたりした後、自分の考えを伝える活動を増やす。

書くこと

- 会話の流れに応じて与えられた語を用い、簡単な表現で応答できる。
- 指定の語数に満たない解答もあるが「書いてみよう」という意志が見られる。
- 基本的な文法(未来表現・疑問詞の使い方等)が定着している。
- 文を構成する主要な要素(主語、動詞等)を正しく使う。
- 口頭で表現できることを、正しい文法で書く。
- 事実や自分の考えなどを整理し、まとまりのある文章を書く。
- 【課題解決に向けた学校の取組】
- ・授業内で行う書く活動の際に、例文などから基本的な例文を参考に自分の考えを書く活動を取り入れる。
- ・主語や時制を変えた書き換え練習を重ね、定着を促す。

<生徒質問用紙>

高い項目

毎日、同じくらいの時刻に寝起きし、朝食を毎朝食べるなど、よい生活習慣や生活のリズムが身についている。多くの生徒が、学校に行くのが楽しい、普段の生活の中で幸せな気持ちになることがある、と感じており、安定した家庭生活、学校生活を送っていることがわかる。また「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」「自分と違う意見について考えるのは楽しい」と答えた生徒が多く、学校がよいふれあいの場となっている。

自分には良いところがあり、先生もそれを認めてくれていると感じており、自己肯定感が高いことがうかがえる。また、強い正義感をもっており、いじめはどんなことがあってもいけないと考え、「人が困っているときは進んで助けている」と多くの生徒が答えてる。。また多くの生徒が、将来の夢や目標があり、人の役に立つ人間になりたい、と考えている。

今住んでいる地域の行事に参加している生徒が多く、そのためか「地域や社会をよくするために何かしてみたい」「日本や自分が住んでいる地域のことについて、外国の人にもっと知ってもらいたい」と多くの生徒が考えています。コミュニティ・スクールやボランティア活動など地域の人々とふれあう機会に恵まれていることが、ふるさとを愛する気持ちや、周りの世界とのつながりを求める心を育てていると思われる。今後も、校内はもとより、家庭や地域と連携、協力し、他者とのふれあいや体験活動を通して生徒たちの豊かな心、生きる力を育ていきたい。

学習面では、国語や数学、英語の学習が好きで、大切だ、と多くの生徒が答えている。、また、今回のテストでは、多くの生徒が全ての問題で、最後まであきらめずに問題に取り組んだと答えているなど、学習に根気強く取り組む姿勢がみられた。

授業では、話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができており、授業で学んだことを他の学習で活かしている生徒が多い。英語の授業では、スピーチやプレゼンテーションなど、自分の考えを書いたり、発表したりする機会を多く持てており、授業が知識を得るだけの場ではなく、思考力や表現力を身につけたり、意見交換をする場になっていることがわかる。

やや低い項目

ICTについては、学校以外で勉強のために30分以上使用している生徒は多くない。家庭でも学習への有効利用ができるようにしたい。

読書が好きな生徒は多いが、昼休みや放課後、休日に学校図書室や地域の図書館を利用する回数や毎日、読書に使う時間は多くない。また新聞を読んでいる生徒の割合は県や全国に比べて多いが、それでも半数以上が、ほとんど読まないと答えている。朝の読書を実施したり、無料で地方の新聞を提供したりしてもらっているが、活字に親しませる工夫がさらに必要である。

国語、数学、英語の3教科とも、回答時間は十分にあった、またはちょうど良いと多くの生徒が答えているが、英語のスピーキングテストでは、全国、県の傾向と同様、やや時間が足りないと答えた生徒が多くいた。また、ICT機器を使った表現活動は、授業に取り入れているが、家庭学習の課題（宿題）としてICT機器を使用して、英語の音声を開いたり英語を話す練習をしたりしている生徒の割合は高くない。家庭学習で読んだり話したりなどの練習に使わせていきたい。